

目次／テーマ展「水辺の生きもの」表紙／いわて文化ノート p.2-3／展覧会案内「水辺の生きもの」 p.4-5／事業報告 第83回自然観察会「湿地の生き物を観察しよう」／事業報告 第83回地質観察会「北上市西部、地層は続くよ ～竜の口層貝類化石をもとに～」 p.6／事業報告 いわて大恐竜展 ティラノサウルスの進化の謎／事業報告 第2回 岩手県立博物館写真コンテスト「私の岩手山」入賞作品決定 p.7／インフォメーション p.8

テーマ展
水辺の生きもの



河川・湿原・水田・湖沼・干潟など水辺の生きもの多様性や生態を、豊富な実物標本と生態写真で紹介します。

■いわて文化ノート

岩手県指定有形民俗文化財「盛岡藩 操座元鈴江四郎兵衛関係資料」について

学芸第二課長 木戸口 俊子

令和4年4月8日、当館蔵の江戸時代と考えられる操人形が「盛岡藩操座元鈴江四郎兵衛関係資料」として岩手県有形民俗文化財に指定されました。資料は人形や古文書など計39点、盛岡市鉾屋町の鈴江家から寄贈されたもので、資料名の鈴江四郎兵衛の子孫の家にあたります。資料によると、四郎兵衛は盛岡藩で操座元として自らの一座での操芝居（操人形芝居）だけではなく、他領から来る操人形、常磐津、寄席浄瑠璃などの興行にも関わっていました。当時の芸能の興行支配の様子を示すものとして貴重な資料と認められました。

■操人形

現在の人形浄瑠璃や文楽の人形は、1体の人形を3人で操る「三人遣い人形」です。江戸時代後期に三人遣いが主流になりますが、当館の操人形は1体の人形を1人で操る「一人遣い人形」で、さらに古い時代のものであります。その中で、最も古いと考えられる人形は「男」「女」としている全長76cm前後の人形です。着物の裾から手を入れ、頭部から続く長胴串を持つことで、人形を支え操ることができます。「男」の人形では長胴串に別の棒が続き、左腕に繋がっています。長い



左上：「男」 右上：「女」
下：「女」の長胴串

棒は袖脇から出ており、操作しやすいようになっています。長胴串は裾から手を入れて持ちやすいのですが、胴串が長い分、手先の動作が頭部（顔）に伝わりにくいという欠点があります。短い胴串を持つことで、より細やかな動作を行えますが、裾からでは届かないため、背中（腰）から手を入れる形に変化していきます。

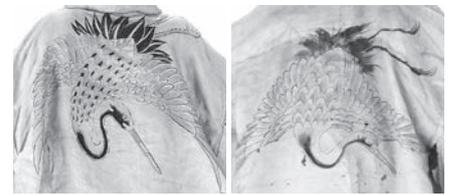


「千歳」

「千歳」という人形は、背中から手を入れられるようになっており、胴串が短くできています。そのため、手先の動きが直に伝わり様々な表情を表現できるようになりました。また、内部の腰の部分には輪っかがとりつけられており、より動作も滑らかになりました。「三人遣い人形」では、この輪っかに足がとりつけられていますが、当館の人形には足がありません。その点も古い人形の特徴です。「千歳」は、「翁」「三番叟」という人形ともに「式三番」という儀礼的な舞の演



左：「千歳」の亀 右：「三番叟」の亀



左：「千歳」の後肩の鶴 右：「三番叟」の鶴

目に登場する人形です。身丈は「男」「女」とさほど変わりませんが、腕を広げると身丈よりも長く、より大きな人形の印象を受けます。衣装も絹地に鶴・亀・松・竹・笹などが描かれ、とても豪華なものです。踊るたびに絹地ならではの、しなやかさや華やかさが表現できます。

同じような衣装を身に着けた「三番叟」という人形があります。前述のとおり「式三番」に登場するこの人形は、操人形の中で最も身丈が大きい上に、さらに進化しています。下記の写真のように目と口に切れ目が見られ、動くことがわかります。衣装をとって、頭部についている胴串を見ると、短い胴串の上に紐があります。この紐を引くことで眼球が動き、裏側にもう一つ描かれた驚いた表情の目となります。同時に、閉じていた口元が広がります。残念ながら現在は動きませんが、「千歳」よりももっと豊かな表現ができるようになっています。この人形はあとから目と口が動くように作り直されたと考えられています。



左：「三番叟」の顔
右：「三番叟」の胴串

笑顔が特徴の「恵比須」は、人形浄瑠璃には欠かせない人形です。人形浄瑠璃

では、室町時代にえびす様のご神像をかたどった人形を操ったことが由来とされています。現在も、えびす神社の総本社「西宮神社」（西宮えびす神社：兵庫県西宮市）は人形芝居の祖の地とされています。当館の「恵比須」人形は、身丈が「男」「女」と同じぐらいで、裾から手を入れて操ったと思われます。しかし、頭部を



「恵比須」

支える胴串は短く、「千歳」や「三番叟」ほどです。胴串に手が届きにくく、扱いくいはずですが、胴串の先端をみると再加工の跡があり、もとは長胴串だったものを後に短くした可能性があります。

■指遣い人形

指遣い人形は7点あり、頭部のみが3点あります。これらの人形は身丈40cm弱で、人差し指を人形の頭部に差し込み、両手を開いて親指と小指で腕を操作したと考えられます。操作する際に、着物と頭部がずれないように前もって着物に頭部を縫い付けるための穴が施されています。

人形の使い方としては、操人形芝居演目の合間に行われる小芝居用、屋外での簡易芝居用など考えられますが、詳細は



「武官風」人形の顔

不明です。左下の人形は武官風の人形です。顔の描き方を見ると左側の人形の目が見開いたような目、右側の人形は切れ長の目をしています。人形浄瑠璃や文楽では、目尻が丸くなっている目を「丸目」と呼び、敵役方を表します。左側の人形は眉や口の様子からも敵役の人形だったのでしょう。穏やかな表情の右側の人形と対になっています。女官風の2点の人形も表情の異なる対と思われる人形です。



「女官風」人形



「町人風」人形

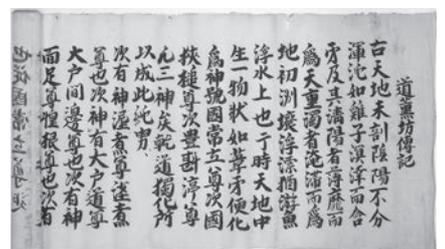
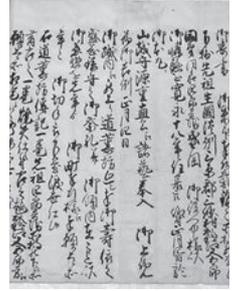
指遣い人形の首部
着物に縫い付ける
ための穴がある

女官風の人形は、表情もさることながら、衣装も興味深いものがあります。帯は付直しの可能性が高いのですが、着物は大柄な文様を配し金糸を豊富に用いた刺繍が施され、江戸時代寛文期（1661～1673年）に流行したという「寛文文様」と見られる柄です。布地は操人形と同様絹地で裏地は麻を使用しています。

町人風の人形は3点あり、いずれも練り絹の横格子の着物です。「練り絹」は生絹織物を精練して柔らかく光沢を出した絹布で、練り絹の横格子は江戸時代元禄期（1688～1703年）に流行したと言われています。

■古文書

これらの人形の年代に関わる古文書類が15点あります。旧鈴江家の敷地内にはかつて三条稻荷神社があり、棟札4点（天保10（1839）年～）が残っています。また天保12（1841）年をはじめとした「操座元太夫系図」や「操師座元四郎兵衛之覚」「諸用書留帳」などから、鈴江家の由緒、操座元としての役割などが見えてきます。淡路国三原郡三条村（現



左上：天保10年の棟札

右上：「操師座元四郎兵衛之覚」

下：「道薫坊傳記」

兵庫県南あわじ市) 出身の鈴江四郎兵衛は、寛永18（1641）年藩主南部重直に「道薫坊廻し」を披露し、盛岡居住や興行を許されたそうです。正統な人形操師を示す「道薫坊傳記」も残っています。さらに別の古文書から、鈴江家は幕末には印判業を兼業しながら、操座元を明治まで続けていたこともわかります。

江戸時代に盛んに行われていた淡路人形芝居の全国興行ですが、その中の一人として鈴江四郎兵衛は本州最北の盛岡までやってきたのかもしれませんが。時代の移り変わりや自然災害など、幾度となく資料紛失の危機がありながら今日まで残った大変貴重な資料です。

■テーマ展

水辺の生きもの

会期 令和4年9月23日（金）～12月4日（日）

はじめに

水辺は水域と陸域の境界線上にある環境を広く指す言葉で、自然湿原や干潟など自然のもの他に、水田・ダム貯水湖・農業用ため池など人工的なもの、河川やヨシ原など人為管理の影響下にあるものも含まれています。水域または陸域で生きていくためには、それぞれで全く異なる能力や生活様式が必要で、**水辺**には両方に上手に適応した特別な生きものが多数暮らしています。しかしながら、有史以来の長年の人間活動は**水辺**を大きく破壊・改変し続け、そこに暮らす生きもの大多数が絶滅の危機にあります。

岩手県は山地が多く平地や低地が少ない地形的特徴のため、近隣県（青森・秋田・宮城）と比べると、大きな自然湿原や湖沼、河口・干潟はほとんど発達しませんでした。限られた小さな**水辺**も長年の人間活動や近年の大規模災害で損なわれ続け、県内の**水辺**の生きものは危機的な状況に陥っています。

本テーマ展では、水の流れに沿って**水辺**を6つの環境（河川、自然湿原、水田、湖沼、ヨシ原、河口・干潟）に分け、それぞれの景観と生物相の特徴を、豊富な実物標本と生態写真で紹介しします。特に100点ほど登場する鳥類の本剥製は高い品質を誇り、生き生きとした姿の数々は必見です。また、岩手県を代表する**水辺**である高松公園芝水園（ヨシ原：盛岡市）と春子谷地湿原（自然湿原：滝沢市）について、当館の生物部門が実施した生息生物相の調査成果も合わせて紹介しします。両所が直面している保全上の課題をご理解いただくと幸いです。

本稿では、1章：河川、2章：自然湿原、4章：岩手の両生類、5章：湖沼、7章：河口・干潟に注目し、その内容を詳しく紹介しします。

1章 河川

山地に降った雨水は森林の土壌で浄化されて湧き出で、その小さな流れが集合して大きな川が生まれます。上流域では小川や溪流が森林の中を足早に流れ、生きものの命を支えています。県内にはそれらが無数にあり、カワネズミやカワガラス・ヤマセミ、サンショウウオ類やトンボ類・カワゲラ類などが暮らしています。

シノリガモは北日本の海上で冬を過ごし、初夏に東北地方の溪流へ上って繁殖します。青森・秋田・宮城で確実な繁殖が確認されていますが、岩手では未だありません。私は県内でもどこかで繁殖していると予想して探しているのですが、果たして見つかるでしょうか。



春の溪流のシノリガモのつがい

平地を流れる中流域では水の流れが緩やかになり、浅瀬や中洲に小石が堆積した礫河原れきが生じます。大雨時の増水かくらんが頻発する環境を好む草本類が生え、イソシギなどが営巣します。



イソシギの巣と卵

2章 自然湿原

高山や山地の高層湿原や低地の低層湿原は、気温・土壌・地下水・地形などの条件が合致した結果、独特な**水辺**環境が長い間保たれてきました。県内では、八幡平の黒谷地湿原・八幡沼湿原・御在所湿原、岩手山の春子谷地湿原、栗駒山の名残ヶ原湿原など、高山や山麓で自然湿原がいくつか残っています。今ではほとんど見かけなくなった湿性草原棲のチョウ類（ゴマシジミなど）・トンボ類（ハッチョウトンボなど）・クモ類などの昆虫類や小動物、トキソウ・モウセンゴケなどの草花が生き残っています。



ゴマシジミ



トキソウ

4章 岩手の両生類

文字通りに水陸両方で生きる両生類は**水辺**を代表する生きもので、県内には有尾類（サンショウウオ類・イモリ類）4種と無尾類（カエル類）12種が分布します。本展では新収蔵を含む10種の精巧なレプリカ、それ以外の種の生態写真を展示して、県内に分布するほぼ全種を紹介しします。

中でもトウキョウダルマガエルは岩手県を代表する両生類です。有名なトノサマガエルとそっくりですが、背のこぶの様子や足の長さの比率で見分けます。両者は分布域も異なり、トウキョウダルマガエルは岩手県内陸中部～関東平野に生息し、特に県中南部の水田地帯で多く見られます。一方のトノサマガエルは本州・四国・九州に広く生息しますがトウキョウダルマガエルの分布域には生息せず、県内では内陸北部と西端部だけで見られる比較的珍しい種類です。



トウキョウダルマガエル

5章 湖沼

山地や低地にある大小の湖沼は、水生の小動物や淡水魚類・両生類の大切な生息場所で、それを狙ってサギ類やカワセミが飛来します。カイツブリやカンムリカイツブリは水草で浮巣を作って営巣し、潜水して小魚や小エビなどを捕えてヒナに与えます。

秋になると遠い北のシベリア方面からカモ類やハクチョウ類など多数の水鳥が飛来し、越冬して翌春まで滞在します。



カンムリカイツブリ

カモ類は種類によって食物が異なるため、同じ湖沼で共存できます。マガモやコガモは夜に水田で落穂を食べ、ハシビロガモやオナガガモは広い嘴で水中のプランクトンを濾して食べます。潜水ガモ類は水底へ潜って小動物や貝類を採り、アイサ類は水中を速く泳いで小魚を捕らえます。



ハシビロガモ

7章 河口・干潟

河川と海がつながる河口周辺には、水が運んだ砂や泥が堆積し、砂州や干潟が形成されます。岩手県は大河川の河口部を持たないため、これらはあまりありません。東京湾や九州の有明海などでは広大な干潟が形成され、南西諸島などではマングローブ林が発達します。



宮崎県串間市の本城干潟



オーストラリア北西部のマングローブ林

これらの水辺には小さな藻類や二枚貝類・ゴカイ類などの無脊椎動物が多量に生息します。彼らは水中の栄養塩や有機物を吸収し、水を浄化する役割があります。それらを求めて、巻貝類やカニ・エビ・アナジャコ・ヨコエビなどの甲殻類、小魚などが多数集まります。



ミズヒキゴカイ類

シギ類・チドリ類・カモ類・カモメ類など多数の渡り鳥が秋～春に飛来し、これら藻類や無脊椎動物、小魚などを大量に捕食して渡りや越冬のための栄養を補給します。彼らが小さな生きものを適度に食べることで、生態系のバランスが保たれています。



ウミネコのつがい

人間活動、特に干拓や埋め立てなどの開発行為によって、干潟やマングローブ林は世界的に激減しています。水質浄化などの生態系サービスは人間の暮らしに無くてはならないもので、これらを保全することは私たちの重大な責務と言えます。(専門学芸調査員 高橋雅雄)

■事業報告

第83回自然観察会「湿地の生き物を観察しよう」

日時：令和4年5月29日（日）午前9時30分～12時 場所：滝沢市穴口 木賊川遊水地

滝沢市穴口の木賊川遊水地は、木賊川と巣子川の合流点付近に広がる湿地帯です。以前は水田や畑がありましたが、県が土地を買い上げ、遊水地としての整備を進めています。遊水地とは、大雨で川が増水した時に、あふれた水を一時的に貯めることで、下流の洪水被害を減らす役割を担う場所のことです。

遊水地を造るにあたって県がこの地域の生物を調べたところ、様々な絶滅危惧種がいることが分かったため、現在は県立大学やたきざわ環境パートナー会議などが協力し、保全活動とさらなる調査を行っています。

岩手県の低地の湿地帯は近年、ほとんどが埋め立てられるか水田として整備されており、湿地の生物は身の回りから急

速に消えています。今回の自然観察会では、そのような生き物を中心に、約2時間の観察を行いました。

まず集合場所近くのヨシ原では、オオヨシキリが盛んにさえずっており、高橋学芸員からその生態について話を聞きました。

遊水地の奥に設けられたビオトープでは、トウキョウダルマガエルやシオヤトンボ、サクラソウなどを見ることができました。また、たきざわ環境パートナー会議の齊藤さんから、市民による保全活動についてお話をうかがいました。湿地に木道を造ったり、改変される予定の場所から絶滅危惧植物を移植したり、外来種を駆除したりと、様々な活動が行われていることを学びました。



ビオトープでの生物観察

川沿いの道では川底にすむカワシジユガイを手に取りながら、その生態について渡辺学芸員から説明を聞き、コウライテンナンショウやルリソウ、ツルカノコソウなどの花を観察しました。

やや暑すぎるほどの好天に恵まれ、ふだんはあまり意識することのない湿地帯の大切さを知ることができた日でした。

（主任専門学芸員 鈴木 まほろ）

■事業報告

第83回地質観察会「北上市西部、地層は続くよ ～竜の口層貝類化石をもとに～」

日時：令和4年7月3日（日）午前10時～午後15時15分 場所：北上市和賀町

7月3日、第83回地質観察会を北上市で実施しました。30℃を超える厳しい暑さの中、小中学生を含む25名の方々にご参加いただきました。講師は、研究協力員の大石雅之先生です。

今回のテーマは、「地層は続く」です。同時代の化石が、遠く離れた別の場所から産出していることを確認し、地層の空間的な広がりを感じていくことを目的としました。主な教材は、竜の口層貝類化石です。竜の口層は新生代第三紀中新世の終わりから鮮新世の初め、約500万年前の海成層と言われ、カキをはじめ様々な種類の二枚貝の化石が産出します。

最初の観察地は、瀬美温泉駐車場から夏油川を挟んで対岸の露頭です。かつては竜の口層の全体が観察できる場所とし

たが、現在は植物の繁茂と川の侵食により間近での観察が難しくなりました。そこで工夫したのが、大石先生お手製の「紙芝居」です。直接目にできない地層の様子を「紙芝居」で説明いただき、竜の口層について理解を深めました。

次は、いよいよ化石を追う行程です。まずは瀬美温泉北側に位置するジゴク沢です。露頭を観察すると、貝の模様が残る印象化石を見つけることができました。

続いて、さらに北に位置する鈴鴨川ヨリ沢を目指しました。未舗装の林道を走行し、林内の草木を掻き分けながらたどり着いた先に、圧巻の光景がありました。泥岩中に無数に密集するカキ化石層、さらにその下の地層には様々な二枚貝の化石が密集していました。多くの方々から

感嘆の声が聞こえ、特に夢中になって観察しているお子さん達の姿が印象的でした。化石を目の前に、地層の広がりを実感できたのではないのでしょうか。

本観察会に際し、北上市や瀬美温泉様をはじめとした多くの方々にご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

（主任専門学芸員 佐藤 修一郎）



<化石層の前に説明を聴く参加者の皆さん>

■事業報告

いわて大恐竜展 ティラノサウルスの進化の謎

開催日 令和4年3月18日(金)～5月8日(日) 岩手県民会館 展示室

令和4年3月18日から5月8日にかけて、岩手県民会館展示室にて「いわて大恐竜展 ティラノサウルスの進化の謎」(主催：テレビ岩手・読売新聞社、特別協賛：岩手県民共済)が開催されました。この展覧会は恐竜の中でもとりわけ人気の高いティラノサウルスにスポットを当て、地球上で恐竜がどのように進化して



いわて大恐竜展の展示の様子

きたのかを、多数の骨格標本や実物化石を用いながら紹介したものです。

この展覧会には当館も協力をさせていただいており、館蔵標本を中心に岩手県内で見つかった恐竜や同時代に生きていたさまざまな生物の化石を展示した「岩手の恐竜」コーナーを制作しました。

このコーナーでは、岩泉町の白亜紀前期の地層(宮古層群)で発見された日本初の恐竜化石である「モシリユウ」の上腕骨の複製標本や、同じく宮古層群で見つかったサンゴやウミユリといった当時の海の動物の化石を展示しました。また、久慈市の久慈琥珀博物館の琥珀発掘体験場に露出する白亜紀後期の地層(久慈層群)から産出したティラノサウルス類の歯化石(複製・久慈琥珀博物館蔵)の展

示なども行いました。

展覧会に訪れた方たちは、日本で最初に恐竜の化石が見つかった場所が岩手県であるということや、恐竜以外にもとてたくさんの生物の化石が県内で見つかることにとっても驚いている様子でした。それと同時に、将来さらに多くの種類の恐竜が岩手で見つかる可能性があることを知り、自分も新しい恐竜の化石を見つきたいと意気込んでいる子どもたちの姿も見られました。

新型コロナウイルス禍の難しい状況ではありましたが、会場にはとても多くの方に足を運んでいただきました。これからも岩手県の貴重な化石などを紹介する機会をいただけましたら幸いです。

(専門学芸員 望月 貴史)

■事業報告

第2回 岩手県立博物館写真コンテスト「私の岩手山」
入賞作品決定

岩手山は岩手県の最高峰であり、日本百名山にも名を連ねている素晴らしい名山です。最も好きな山が岩手山という方も多いと思います。

県立博物館では、広く県民の皆様写真撮影を楽しんでいただき、作品を気軽に発表できる機会を提供することを目的として第2回写真コンテスト「私の岩手山」を実施(募集期間：令和3年6月19日～令和4年2月25日)しました。「我が町から見える岩手山」、「雪化粧の岩手山」、「岩手山登山での写真」、「誰も知らない岩手山」など、思いが伝わる四季折々の素晴らしい作品を25人の方から53点ご応募いただきました。ありがとうございました。

応募作品は、令和4年4月22日～5

月31日まで博物館グランドホールで展示するとともに、新聞記者の方など8人の選考委員による投票及び5月7日までの入館者の方による投票の総合得点をもとに写真コンテストの入賞作品を決定し、5月27日に表彰式を行いました。入賞された方は次のとおりです。

【理事長賞】

盛岡市 岡野 治 様
盛岡市 高橋 信也 様

【博物館長賞】

滝沢市 細野 清 様
盛岡市 岩泉 大司 様
花巻市 柳田 江久子 様

選考委員の方からは、「今回、様々な岩手山の写真を通じて、日々見ているとは違った岩手山の表情を知ることがで

き、非常に興味深く拝見させていただきました。四季によって彩りも異なり、撮影場所も幅広く、力作揃いでした。」というコメントをいただきました。

(総務課長 栗澤 孝信)



【理事長賞 盛岡市 岡野 治さんの作品】
作品タイトル「三ツ石山から臨む岩手山」



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション

〈令和4年9月1日～令和4年12月31日〉

新型コロナウイルス感染防止への対応について

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。

入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力をいただいております。混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。来館される皆様には大変ご面倒をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認くださいませようお願いします。

- ・「体験学習室」は、一度に利用できる人数を大人こども合わせて15名程度とし、超過した際には入室をお断りいたします。平日は、9:30～16:00に開室し、12:30～13:30は消毒などのため、一時閉室いたします。土日祝日と県内小学校の長期休業の期間は、時間制&入替制とし、入替時には遊具の消毒などのため、一度全員に退室していただきます。
- ・「映像室」は定時上映のみ行い、上映開始後の途中入場はご遠慮いただいております。詳しくはお問合せください。
- ・「たいけん教室」は定員を減らして開催し、付き添いの保護者の方のご参加も、お子様1名につきお1人とさせていただきます。

お知らせ

●資料整理に伴う休館

令和4年9月1日(木)～9月10日(土)は、資料整理のため休館します。

●敬老の日 65歳以上入館無料

令和4年9月19日(月・敬老の日)は65歳以上の方は無料で入館できます。

●文化の日 入館無料

令和4年11月3日(木・文化の日)は無料で入館できます。

展覧会

●テーマ展「水辺の生きもの」

令和4年9月23日(金・祝)～令和4年12月4日(日)

会場：2階・特別展示室

◆文化講演会

10月23日(日) 13:30～15:00 当日受付、聴講無料

会場：地階講堂

★人数制限あり、当日先着50名程度

「南半球のマングローブ林での鳥類研究：カッコウ類と宿主の軍拡競争」
講師：上田恵介氏(日本野鳥の会 会長)

◆特別講演会

11月3日(木・祝) 13:30～15:00 当日受付、聴講無料

会場：地階講堂

★人数制限あり、当日先着50名程度

「水辺に棲む『その他の無脊椎動物』と環境」

講師：松政正俊氏(岩手医科大学教授)

◆展示解説会

①9月23日(金・祝) ②10月9日(日)

各回とも14:30～15:30 会場：特別展示室 当日受付 要入館料

「新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を15名と制限しております。」

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

9月11日「江戸～明治の大众娯楽について～操人形芝居を中心に～」

講師：木戸口俊子(当館学芸員)

*9月25日「岩手の水辺の生きもの：特に野鳥について」

講師：高橋雅雄(当館学芸員)

*11月13日「岩手の水辺のクモ・トンボ」 講師：渡辺修二(当館学芸員)

*11月27日「岩手の水辺の植物について～春子谷地を中心に～」

講師：鈴木まほろ(当館学芸員)

12月11日「『続 雑学のススメ』(笑いと頭の体操)～中高年の皆さんと

一緒に考える日本語(大丈夫ですか、その日本語)と名言(あまり知られていない心が潤う名言)～」

講師：高橋廣至(当館館長)

12月25日「文化財を守るための環境管理紹介ツアー」

講師：山崎遙・丸山浩治(当館学芸員)

秋のまなび教室

10月8日(土)・9日(日) 10日(月・祝) 午前・午後各1回

参加無料 要事前予約 幼児～中学生向け(未就学児は保護者同伴)

定員：各5名～10名程度(定員はプログラムにより異なります)

募集期間：9月27日(火)～

申込方法：メールにて受付 ※先着順・定員充足次第締切

10月8日(土) 「生きもの探偵」「どきのけんきゅう」

10月9日(日) 「侍になろう!」「ミニミニ緑日!」

10月10日(月・祝) 「たんけん! 岩石園」

詳細は博物館ホームページをご確認ください。

第84回自然観察会

11月23日(水・祝) 10:30～12:00 要事前申込 先着順込

盛岡市高松公園でハクチョウ類やカモ類などの水鳥を観察します。

定員：20名程度(定員充足次第締切)

募集期間：11月4日(金)～11月13日(日) 専用メールにて受付

参加費：100円(保険料)

週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○10月1日 小津安二郎の名作1(実写/一般向け)

晩春(108分)

○11月5日 フィルム映画第1弾(実写/一般向け)

次郎物語(115分)

○12月3日 フィルム映画第2弾(アニメ/幼児～一般向け)

フランダースの犬(103分)

◆チャレンジ!はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジ! マークをさがして はくぶつかんをたんけん!

9月17日・18日・19日・24日・25日 テーマ：水(みず) ※第3・第4

10月 8日・9日・10日・15日・16日 テーマ：米(こめ)

11月12日・13日・19日・20日 テーマ：黄(き)

12月10日・11日・17日・18日 テーマ：終わり(おわり)

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30

幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生10名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※予約は専用メール(一度に3名まで)で受け付け、応募多数の場合には抽選を行います。詳細は博物館ホームページをご確認ください。

9月	お休みです	11月	6日 化石のレプリカ 13日 天然石のフォトフレーム 20日 お絵かきはんこ 27日 松ぼっくりのXmasツリー
10月	2日 猫絵馬づくり 16日 スライムであそぼう 23日 カラフルクモづくり 30日 ヨーヨーの絵つけ	12月	4日 松ぼっくりのXmasツリー 11日 たこづくり 18日 かんたん門松 25日 まゆで干支づくり(卯) ★

★印は午前(10:00～11:30)と午後(13:00～14:30)の2回あります。

利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)、9月1日～10日(資料整理のため)

■入館料 一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※若手子育てパスポート所有者で、パスポートに記載のお子様と一緒に来館された場合は、入館料免除となります。

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第174号 令和4年9月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595
-----------------------------------	---